

わが国より一歩先を行くカナダへ

「カナダ・ビクトリア 幼児教育現場の視察」

東京都認証保育所
暁愛児園 園長 児玉真理



わが国より一歩先を行くカナダへ

ひの社会教育センターにお力添えをいただき「カナダ・ビクトリア・幼児教育現場の視察」に参加いたしました。センターの方は現地でのスケジュールや視察希望施設の相談に丁寧に応じて下さり、プログラム内容はそれはそれは充実したものを提案して下さいました。

福祉先進国を代表する幾つかの国の中から、わが国より一歩先を行き、日本の福祉の現状に近く日々の保育にとり入れやすい国としてカナダの選択をアドバイスして下さいました。

現地の専門機関である「ビクトリア国際交流センター」日本事務局の方との事前打ち合わせの頃には視察への期待も高まります。何かと行事が組み込まれた保育所を数日空けることもあり、出発時期を自由に選べて、2名から催行して頂けるこちらのツアーはとてありがたく、海外研修を実行することが出来ました。

現地のスタッフと一緒に行動

いよいよ個人オリジナルツアーの始まりです。気心知れた保育所設置者（母）と2人で参加しました。ビクトリアでは国際交流センターの現地事務所の近くにホテルを用意して頂き、24時間体制で緊急時にも対応して下さるシステムは少人数での参加にはとてありがたく安心感を与えてくれます。

現地で案内をしてくださる方は、ビクトリア大学を卒業して、同じ幼児教育を学ばれた日本の方です。福祉・教育・カナダと日本の福祉制度の専門知識も高く、ファミリーセンターや障害児支援施設でボランティア経験をつまれた方でした。施設を見学するとともに現地の方に日本の認証保育所を紹介し、日本の文化にも触れて頂きたく持参した日々の保育の活動や行事の写真・干支のタペストリーや紙風船・折り紙なども丁寧に紹介と通訳をして下さいました。

カナダの保育についてのレクチャーから施設視察前の半日のレクチャーは、実際の施設見学の予備知識となり、視察中に施設の方々との会話も進みとても勉強になりました。内容は、カナダ全体の家庭支援制度、多民族の受け入れによる文化の違いを取り入れた支援、福祉施設設置主体の違いによる設備や補助金と地域支援の違い、地域や施設利用者像による支援の狙いの違い、障害児を抱えるファミリー支援等内容の濃いものでした。



ただの見学で終わらない視察

どの施設においてもただの見学に終わってしまうことはなく、保育室内に入り施設職員や利用者・ボランティアの方と話し合う貴重な時間を、又、そこで遊ぶ子どもたちと触れ合う機会を沢山用意して下さいました。

皆様の前で日本の手遊びを披露することが出来たのもうれしい経験でした。

現地の方と沢山の交流が持てたことは机上の研修に何よりも勝る勉強になりました。

施設では保護者持ち込みのお弁当類を保管する冷蔵庫の中や保育用品の倉庫の見学までさせて頂きました。日本にない保育用品やベビーカーにも触れ、保育用品カタログにて価格の違いを把握したりごみ処理の仕方等現場ならではの知識を沢山学びました。親子リトミックにも快く参加させて頂き、保護者への子育て指導の方法なども目のあたりにして新鮮な気持ちになりました。



弱者に向いているビクトリアの福祉

まだまだ幼児教育現場で学んだことは沢山ございますが、同じ保育に携わる者としてどこの国でも子どもとそのファミリーを思い真剣に向き合う気持ちは一緒です。「子は社会の宝物」。めまぐるしくかわる保育制度の中で書類の整備に追われる毎日でしたが、日本よりも子どもや老人への支援制度が整い、何よりも地域の方の気持ちが優しくゆったりと弱者に向いているビクトリアで過ごした貴重な時間を通し、人が人にかかわる大切な福祉と改めて感じました。

よい福祉は国・自治体の支援が制度化され、支える者の強い意志と優しさがなければ整いません。カナダ・ビクトリアには州の制度をはじめボランティアの活動には学ぶことが沢山あります。



地域で支えあうビクトリアの子育て

地域スーパーから保育園に運営資金・ミルク・紙おむつ等の寄付があります。ファミリーセンターへも缶詰等の寄付があり、保護者同士では不要になった子ども服をハンガーにかけ、必要とする人はいつでも自由に持ち帰る事が出来ます。利用する保護者はおやつを持ち込み皆で分けて会話を楽しんでいます。

「プレゼントやご馳走にお金がかかるから、クリスマスにストレスに思う親もいる。」と、

そんな方へ支援センターでお金をこっそり包むこともあるそうです。サンタクロースパレードでは沢山のサンタクロースが道行く子ども一人ひとりにお菓子を配っていました。サンタクロースは何処かのお店の方であったり、スポーツクラブの方であったり、車椅子の方であったりします。支援できる人が誰でも自分より弱い人へ手を差し伸べているビクトリアはとても素敵な街だと思いました。



自分ができる範囲で他人に優しく
言葉は通じなくとも心と心が触れ合う温かさに何故か涙がこみ上げました。視察現場で働く皆様へ、そして、今回ご協力下さったスタッフの皆様へ、保育のパワーを頂いたことに心から感謝致します。



日本に戻り、今、かわいい子ども達にそして大切な我が保育現場の職員に向き合えるあたりまえの幸せを改めてとても有難く思います。



少子化を迎え、これから日本を支え、やがて世界にはばたく子ども達によりよい福祉制度が整うこと、そして自分ができる範囲で他人と優しい気持ちで接することができる社会へ日本が成長することを、心から願うと同時にその実現を働きかけていきたいと思ひます。

一から作る事が出来るツアー

これだけ現場に密着しコミュニケーションの時間がとれるツアーにはなかなか出会えません。幼児教育に携わるものとして、ひの社会教育センターの方と一から作る事が出来るツアーに参加できましたことを心よりうれしく思います。

